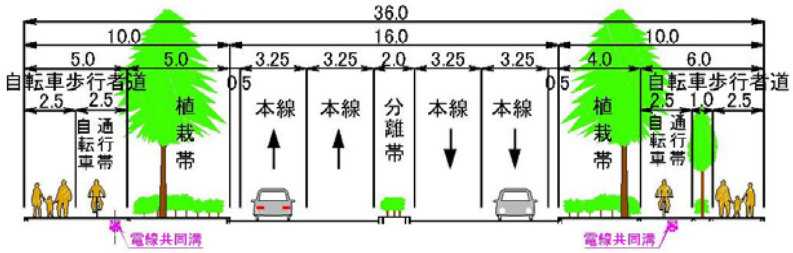
《第22回全国街路事業コンクール国土交通大臣賞》受賞
《平成21年度全建賞（都市部門）》受賞

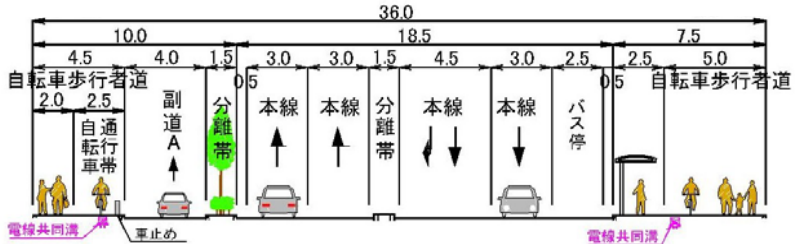
調布都市計画道路3･2･6号　調布保谷線

環　境　施　設　帯

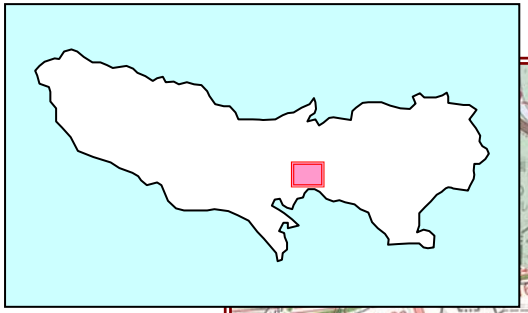
緑　地　タ　イ　プ

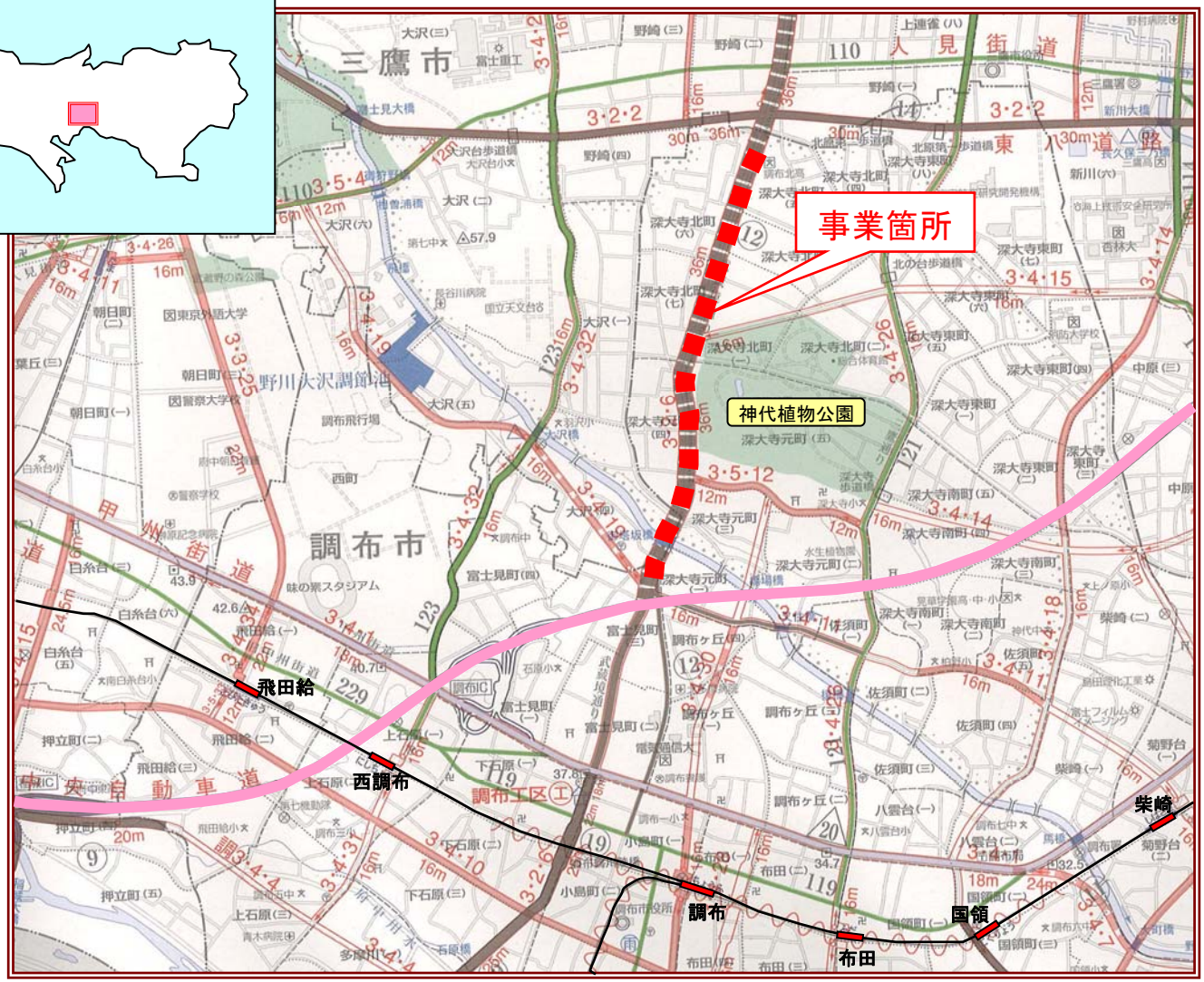


副　道　タ　イ　プ



事業箇所案内図





事 業 目 的

調布保谷線は多摩の南北幹線道路のひとつで、稲城市矢野口を起点とし、稲城・調布・三鷹・武蔵野・西東京の5市を経由し、西東京市北町までの延長約14．2kmにわたる都市計画道路です。

本路線を整備することにより、多摩地域の幹線道路ネットワークの形成や都市間相互の連携強化が図られます。

また、甲州街道や東八道路などの東西方向の幹線道路と接続することにより、南北方向の交通利便性が向上し、周辺交通の渋滞緩和が図られます。さらに、環境施設帯を整備することにより、より良い沿道環境の保全や防災性の向上にも寄与します。

整備を進めるにあたり、西東京区間、三鷹・武蔵野区間、調布・三鷹区間、多摩川原橋及び関連道路区間の4区間に分け事業を実施しています。

事 業 概 要

事　業　名：調布都市計画道路3・2・6号　調布保谷線整備事業
路　線　名：調布都市計画道路3・2・6号　調布保谷線
事業箇所：東京都調布市富士見町三丁目～三鷹市野崎一丁目
事業延長：2，200m
幅　　員：36m（車道16m（4車線）、環境施設帯両側10m）

調布・三鷹区間延長2．2kmのうち約2kmを4車線開放したものである。

本路線については、通過車両による騒音・振動・排出ガスの影響を距離減衰の効果により軽減する等、沿道の生活環境を保全するために「環境施設帯」を設置した。そこで東京都では、この環境施設帯を整備するにあたり、新たな試みとして、住民参加型（ワークショップ方式：市民・地元市・東京都で構成）の「環境施設帯整備検討協議会」を開催し、地域住民の方々から広く意見を聞かせていただき、より地域の特性にあった道づくりを推進し、環境に配慮した道づくりに取組んだ。

また、机上のみで議論を進めるだけでなく、現地に環境施設帯のモデルを設置するなどしながら、その都度検証を行い、地域住民と行政とが一体となった整備を進めてきた。

整備にあたっては、沿道環境の保全に一層の配慮を行うため、車道部で二層式低騒音舗装の実施、歩道部では歩行者が安全で快適に歩行できるよう、無電柱化やバリアフリー化の実施、ベンチの設置や既存樹木の保全を図った。

さらに沿道の状況に応じた植樹帯、自転車歩行車道、副道等を組み合わせることで、「緑豊かで快適な歩行者空間」を確保し、景観の向上にも努めた。

事 業 前 写 真

平成９年１０月撮影

事 業 後 写 真

平成22年7月撮影

事 業 前 写 真

平成9年10月撮影

事 業 後 写 真

平成22年7月撮影

うるおいのある道路空間の創出
(既存樹木を環境施設帯に保存)

浅間神社 ⇦

浅間神社前

深大寺入り口

歴史・文化の保全
(神代植物公園前の景観を配慮)

神代植物公園

沿道環境の改善
(環境施設帯に副道を設置)

沿道環境の改善
(住民の意見を取り入れた緑化ブロックの採用)

沿道環境の改善
(住民の意見を取り入れた目隠し板・高低差処理の採用)

誰もが通りやすい歩行空間の実現
(歩行者と自転車を植栽帯で分離)

公共交通の利便性向上
(道路付属物として上屋とベンチの設置)

沿道環境の改善
(二層式低層音舗装の採用)

歴史・文化の保全
(住民の意見を取り入れた御搭坂橋の景観を配慮)

橋の説明を入れた橋名板とベンチ

◎「めがね型」をイメージし、外観をアーチ状にした。

◎橋上から望めるための「バルコニー」や「深大寺地区」にふさわしく、暖かみを感じるよう「手すり」部分の一部を「木製」とした。

沿道環境の改善
(ボランティア活動による草取りやゴミ拾い)

約2KMにわたり、「東京ふれあいロード・プログラム」で3団体が登録